

リレーコラム

噂んとの話

秋元久雄さん



学生時代あまり勉強しなかったこともあり、本がきつかったのは事実です。30歳ごろから、仕事に役立てるため、人の意見は講演などを聴けばわかりますが、それに加え、文字から与えられる情報を受けとめ、考えることが肝要と気づき、本を読むようになりました。

最初は経営書も読みましたが、最も読んだのは歴史的要素の濃い本でしたね。人間、未来を予想するのは無理がありますが、過去を勉強するのは誰でもできるわけで、これが経済の動きをつかむのにも役立ちます。なかでも一番ガツンときたのが明治時代の人物、後藤新平。テレビや雑誌で知ったのがきっかけで、私の中にその存在が大きくなっていききました。後藤は、金をのこして死ぬものは下、仕事をのこして死ぬもの

歴史を知ることが経済に役立つ

は中、人をのこして死ぬものは上、と書いています。これはそのまま、私の企業経営の理念になっています。後藤新平をよりよく知ろうと読んだのが山岡淳一郎『後藤新平―日本の羅針盤となった男』(草思社)です。もし、時間が許せば、二宮尊徳についての本も読みたいですね。尊徳は、道徳(倫理)を忘れた経済は罪悪(犯罪)と、と書いていますが、まさに現代に通じる言葉です。

社員にすべての技能を身につけてもらう、いわば大工集団の会社を創業して20年になります。小さくとも面白い仕事ができるということ、大学生の就職志望者がふえています。若い人にはおかしいと思ったことは実行してみる、脳だけでなく肉体を使ってほしい、勉強する(本を読む)時間と実行する時間のバランスをよくとって、と言いたいですね。

(平成建設社長)

アマルフィ 女神の

シネマ パラダイス

■物語 クリスマス直前のローマ。外交官の黒田(織田裕二)が日

町並みに魅せられる。原作・真保裕一。監督・西谷弘。

★と一言 荘厳な世界遺産に圧

ス活劇。日本映画も世界に向けてチャレンジ。トム・ハンクス「天使と悪魔」に負けていない。★★★★★ (やまがたじゅん)

★は5個が最高

湖のほ

タリフジ

平成21年7月18日(土)

掲載記事